

経済学研究科博士前期課程研究指導要領

1. 趣旨

2年間の正規の修業年限内に学位論文を提出し、論文審査に合格し、修士の学位を取得できる研究指導体制を以下のように整える。

- (1) 論文指導は、指導教授が行う。指導教授は1年次に研究指導計画書を作成して、2年間で学位論文が完成するよう指導体制を構築する。
- (2) 所定の単位修得、2年次前期終了直前の学位論文中間発表、修業年限内での論文作成が支障なく進行するよう指導教授が助言と指導を行う。

2. 1年次の研究指導

- (1) 指導教授は、1年次の初めに院生と相談して履修科目の選定を行う。
履修科目の選定にあたっては、学位論文に収斂するよう助言する。
- (2) つぎに指導教授は、研究指導計画書を作成し、学位論文作成に至る綿密かつ実現可能性を考慮した指導を行う。
- (3) 専修科目を含む所定単位の修得は、可能な限り1年次に習得するよう助言し、2年次は、学位論文の作成に集中するよう指導する。

3. 2年次の研究指導

- (1) 指導教授は、研究指導計画書に基づいて、2年次前期終了直前（毎年7月）に実施する学位論文中間発表に向けて事前に準備するよう指導する。
- (2) 中間発表での成果（質疑応答、疑問点払拭など）を踏まえて、学位論文の内容を再度精査、修正し、提出期日までに論文が完成するよう指導する。
- (3) なお、研究指導計画書は、適宜に見直す。